

会 議 の 状 況

1 日 時 平成28年3月23日(水) 15:00 ~ 15:45

2 場 所 ラ・プラス青い森 2F メープル

3 概 要

(1) 東通原子力発電所の原子力災害時における住民避難について

事務局から資料1～資料3に基づき説明した。

(2) 今後の進め方について

事務局から資料4に基づき説明した。

(3) 各市町村の避難計画の修正状況及び方向性について、各市町村から発言があった。

東通村：これまでの原子力災害避難対策検討会又は各部会における様々な議論を踏まえ、避難計画の修正作業中。避難先の青森市内の避難所における収容人数の再配分を行っているため、引き続き県と調整し実効性ある計画としていきたい。

六ヶ所村：現在避難計画の修正作業を進めている。

横浜町：来年度の早い段階での修正に向けた作業に取り組んでいる。

野辺地町：避難計画に係る修正事項はないものと認識している。

むつ市：新たにむつ市住民の受入先となった黒石市、五所川原市、平内町に感謝する。避難所の再配分に時間を要するため、修正時期を明言できないが来年度の早い段階での修正を目指す。

(4) 質疑・応答

(質問) 避難所の開設要員の確保については、受入市町村単独では限界があるため、具体的な体制を含めて県等の支援を要請したい。

(回答) 資料2に記載のとおり、県、受入市町、その周辺市町村、原子力事業者等と開設要員確保の体制を検討していきたい。

(質問) U P Z の避難に重要な段階的避難、自主避難の抑制について、住民にどのように理解を求めるのか。

(回答) 以前実施した避難時間推計シミュレーションでは、一斉避難、段階的避難に関わらず、避難の終了時間に大きな違いは見られないが、一斉避難の場合は渋滞により、個々の避難住民が避難経路上に留まる時間が大幅に伸びることが分かっており、被ばく軽減の観点からも段階的避難は重要である。こうした考え方を住民に理解して頂く必要があるが、その手法については各市町村と協議しながら進めて参りたい。